

第9回新潟県手術看護認定看護師セミナー

平成31年1月

研修名	術中急変時の看護 ～術中の急変（突然の出血）、あなたならどう行動しますか？急変時の看護を学びましょう～
対象	新潟県内の手術看護師 レベルⅡ
研修の意義	平成25年新潟県手術室セミナーの参加者へのアンケートを行った。結果、患者が術中に急変した場面の対応について学びたいという意見が多かった。優先順位をどう判断し行動すべきか、正しくアセスメントできているかといった内容の要望があった。幅広い経験年数の看護師からの要望があったが、今回の研修対象は、Ⅱレベルの手術室看護師と設定した。Ⅱレベルの手術室看護師は、まだ手術室経験が浅く、知識や実践力が未熟な段階で外回りや器械出しとして急変場面での対応を余儀なくされてしまう。特に日常においては、患者の急変に遭遇する機会は限られ、急変時の看護を経験から習得していくことが困難な状況にあることが考えられた。手術室看護師は、いかなる危機的状況下でも的確なアセスメント能力と冷静かつ迅速な行動力が求められる。外回り看護師は他職種間の中でリーダーシップをとる役割があり、器械出し看護師は、患者の状態を把握した上で、先々を予測しながら急激な出血や状態の異変に対応する役割を持つ。認定看護師と術中急変時の事例検討を行うことで、器械出し、外回りの視点で看護を学び、グループワークを通して、急変時の行動の仕方を考えることができる。Ⅱレベルの看護師が、急変時の場面において自信をもって看護実践できること、各自が課題を明確化し、継続的に学習に取り組めるよう支援することを本研修の意義とした。
研修目的	新潟県内のⅡレベルの手術室看護師が、急変時の場面での対応を学び、自信をもって急変時の看護を実践できる。各自が課題を明確化し、継続的に学習に取り組めるよう動機づけることができる
研修目標	1 急変時の看護について事前学習できる 2 グループワーク・講義を通して根拠に基づいた急変時の行動のとり方がわかる 3 自己の学習課題を明確化できる
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 急変時の事例について自己学習（術前の情報を提示し確認事項の明確化、情報を整理し考えられる問題をアセスメントする）して研修にのぞむ グループワーク：時系列（3場面）に急変時の看護及び急変時にどのように考え行動すべきか事前課題をもとに検討する。3場面において考えられる要因と対応を検討する。 急変時の対応の講義 「出血時の対応」波多野 出血時の対応・輸血療法・大量輸血の合併症・血液製剤の確保など 「急変時の対応」堀越 急変時の人的資源の活用・チーム医療について
研修方法	事前学習・グループワーク・講義
指導者または講師	新潟県手術看護認定看護師9名、実践指導看護師1名
概要	<p>期日・時間 参加人数 会場</p> <p>期日：平成30年12月1日（土）13：00～17：00 参加人数：21名 会場：新潟市民病院 会議室</p>

参加費	参加費：500円
結果・評価	<p>21名の参加者だった。看護師経験・手術室経験ともにⅡレベル以上と思われる参加者も10名ほどいた。グループは所属施設と経験の状況にあわせ5Gに分けた。</p> <p>事例検討では各グループともに積極的な意見交換が実施された。Ⅱレベルの看護師でも施設によっては同様の事例を経験していた。どのグループも事前学習とグループワークから、大量出血における危機的状況であることをアセスメントできていた。しかし、血圧低下が大量出血であることを導き出すために、大量出血以外の要因を挙げることは難しかった。そこで認定看護師による場面ごとの観察の視点を提示したことで参加者が新たな知識と対処方法を学ぶことができ、根拠に沿った省察に繋げることができた。</p> <p>レベルⅡの看護師は急変時リーダーや師長へ報告するという役割がある。認定看護師がマネジメントの視点で急変時の役割を提示したことで、参加者の自覚となり成長できるきっかけ作りになったのではないかと考える。また、ベテランの看護師のグループでは後輩指導の問題が提起されたが、意見交換を通し自施設の改善点を見出すことができ、施設に持ち帰ることができたのではないかと考える。</p> <p>アンケート結果からも、「疑似体験という教育ツールが知れ、自身や部署に還元できる」とあり、ディスカッションや講義を通して施設に持ち帰ることができたと考える。</p> <p>研修終了後アンケート結果</p> <p>満足度は92.75%（最高100%最低70%）だった。グループワーク・講義についてはとても活かせる・まあまあ活かせるが100%だった。自由記載で、「急変時はうまく動けないが事例を使って考えることができ理解できた」「普段医師の指示でしか行動していなかった」「グループワークと認定看護師からの説明で視点や知識が広がった」「急変時、どう判断して先読みして動いていくか学びとなった」など知識が深まり継続的な学習意欲の向上にもつながった。この結果からも目標を達成することができたと考える。</p> <p>今回、2回目の急変時の看護について事例検討を実施した。昨年度の課題であった施設によって事例である手術を実施していない施設の対応については、参加者からのアンケート結果で「自施設では見ることのできない事例で難しかったが、活かせるところを探し業務に活かしていきたい」と急変時の対処方法を自施設に対応できる方法へ繋げることができた。これは、グループ分けの検討を重ねたことや重要なポイントは認定看護師が講義するという状況で参加者の理解を深めることができたことが良かったと考える。そして昨年の経験から、グループワークについて事例を読み込み認定看護師同士で深く検討したことが良かったと考える。</p> <p>しかし、事例の状況設定を3場面に分けたが、3場面目は認定看護師が急変時の対応についてまとめる状況になる。グループワークが60分と長いと、認定看護師の進め方や考えによって話の内容に差が生じる。</p>